

トーランス派遣で得たもの

35回生団長 信澤昭子

5月から始まったオリエンテーションを経て、トーランスでの三週間の交換派遣プログラムも無事終了しました。派遣生がこの貴重な体験を通して得たものは計り知れないものがあると思います。

学生達は、先ず口ぐちにホスト・ファミリーの温かいもてなしに感動していました。どの家庭も言葉が十分に伝わらないであろう私達をお客様ではなく、家族の一員としてごく自然に受け入れてくれました。トーランス生は毎回の行事に参加して色々と私達の面倒をみてくれました。ビーチパーティーでは、ホスト・ファミリーが次々に果物やお菓子などを持って来て集まり、またドジャース観戦の時には、平日にもかかわらず大勢参加してくれました。このようにして多くの人たちが、楽しみながらこのプログラムをサポートしてくれてことを実感しました。

また学生たちにとっての新しい経験の一つは、市議会やさよならパーティーでのスピーチでした。日本では経験することのない緊張の場で、彼らはユーモアたっぷりに大きな拍手の中でスピーチを終えました。しかし、トーランス生やホスト・ファミリーとの会話の中で、もっと英語が話せたらもっと深く分かりあえたのにと、もどかしさを感じている様でした。これらの経験を通して、単に点を取るためでなく、他の国の人々とコミュニケーションを取るための英語の大切さを学んだ事と思います。

私個人としては、日本食の良さを再認識しました。アメリカの人達も、栄養のバランスのとれた日本の食事に気づき始め、お寿司や豆腐など多くの日本食を食べていました。また家族との毎日の生活を楽しみ、特に夫婦で過ごす時間をとても大切にしているのを感じ、我が家でのこれからの課題を見つけました。

多くの貴重なことを学ばせて頂いた、この派遣制度に感謝しております。この制度を35年間も支えてくれた多くの人たちのご努力に感謝しつつ、今回私達が学んだことを次に続く人たちに伝えていきたいと思っています。どうぞ皆様これからもこの姉妹都市派遣制度へのご協力をよろしく願いいたします。

